

(報告) ユーザー理解活動の取組状況

2019年2月28日

公益財団法人自動車リサイクル促進センター

《目次》

1. 2018年度ユーザー理解活動の計画	・・・ P2
2. 情報の質を高める取組	・・・ P3
3. インターネットメディアでの露出を高める取組	・・・ P4
4. 全国環境イベントでの取組	・・・ P5
5. テレビ・ラジオなどのメディアを活用した取組	・・・ P7
6. 大阪市に常設展示ブースを開設	・・・ P9
7. ユーザー理解活動費の執行状況(第3Q)	・・・ P10

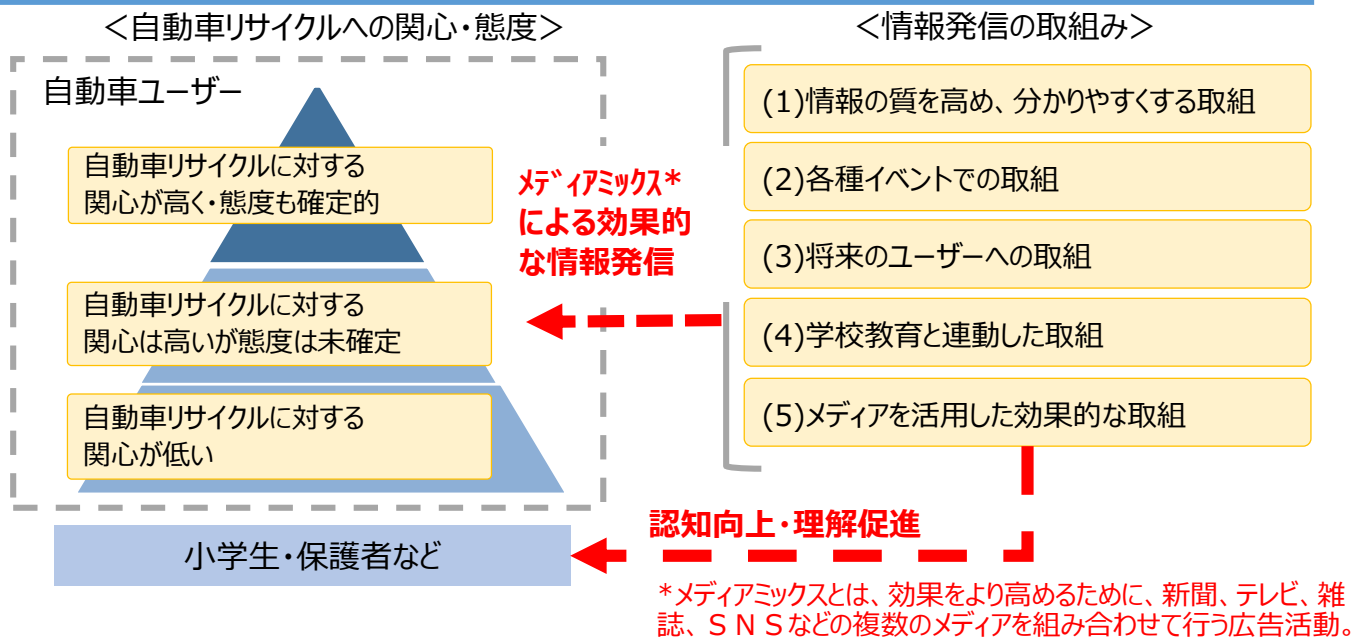


1. 2018年度ユーザー理解活動の計画

ユーザーを始めとした自動車リサイクルの関係者のニーズを把握しながら、新たな切り口により情報発信・共有の高度化を図ることとしている。

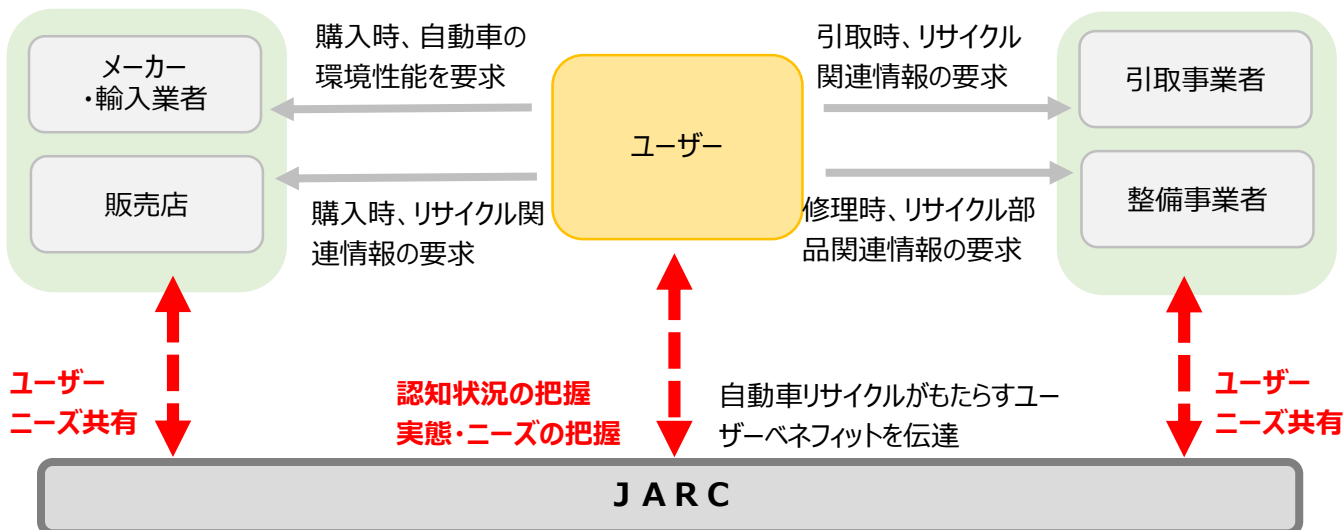
(1) 情報発信の取組

ユーザーにとって利便性が高く、コスト効率が良い手法を用いて、ユーザーに質の高い情報を提供する。そして、ユーザーとのコミュニケーション回数を増やし、効果的にメディアを活用しながら、“点”での取組を“面”への取組へと活動の幅を広げていく。



(2) 情報収集の取組

分かりやすい情報へと広報コンテンツの質を高め、ユーザーに対して効果的に情報を届けられるように、ユーザーの自動車リサイクルについての認知状況や自動車リサイクルの関係者のニーズを把握する。



2. 情報の質を高める取組

JARCウェブページにて、質を高めた情報をタイムリーに発信している。
また、ユーザー向け広報ツールの英訳版を作成し、ウェブページに掲示した。

公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

自動車リサイクルの紹介 二輪車リサイクルの紹介 データ・会議資料 本財団について お問い合わせ

第二回「クルマのリサイクル」作品コンクール
標語・ポスター大募集!

2018.11.01 ニュースリリース
全国の小学生を対象とした第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催

2018.10.31 ニュースリリース
「2018松江市環境フェスティバル」に出展

2018.10.22 更新情報
自動車リサイクルに関する広報ツールを更新

2018.10.19 ニュースリリース
東京郵発の「東京グリーンポンド」に投資

2018.10.16 更新情報
自動車リサイクル法に基づく運用状況等の実績情報を更新(9月度)

動画で知る自動車リサイクル

自動車リサイクルシステムホームページ

自動車リサイクル データ

「クルマのリサイクル」

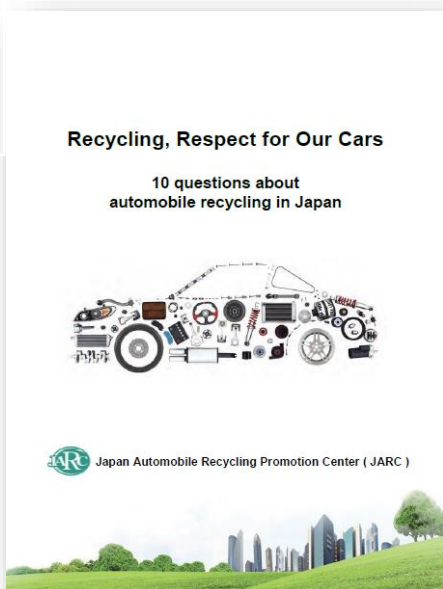
“クルマのリサイクル作品コンクール”にあたり、作品募集を案内



11月28日、北九州市にて第4回目（全4回）の自治体向け自動車リサイクル関連ステップアップ現場研修を、経済産業省、環境省、（一社）自動車再資源化協力機構とともに行いました。研修には、20名の自治体担当者が出席されました。

JARC取組例

自動車リサイクルの概要をまとめた広報ツールの英訳版を作成掲示



11月22日、名古屋市にて第3回目（全4回）の自治体向け自動車リサイクル関連ステップアップ現場研修を、経済産業省、環境省、（一社）自動車再資源化協力機構とともに行いました。研修には、37名の自治体担当者が出席されました。

3. インターネットメディアでの露出を高める取組

2018年4月から2019 年1月末までにニュースリリース配信を23件行い、インターネットメディアでの自動車リサイクルに関する情報の露出を高める取組を行った。結果、インターネットメディアに1,316件の記事が掲載された(広告換算:約3億4千万円)。

リリース情報と広告換算(参考値)

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、
同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

	配信日	リリース情報	掲載数 (件)	広告換算* (万円)
全 17件	4～ 10月末	第1回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞者の表彰式を開催 、 平成30 年度事業計画を策定 、 自治体向け「自動車リサイクル関連基礎知識研修」5月11日から全国9ヶ所で開催 、「 地球環境イベントかながわエコ10フェスタ2018 」に出展 他13件	983	25,434
18	11/1	第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催	56	1,221
19	11/30	「エコプロ2018」に出展	56	1,426
20	12/5	「京都環境フェスティバル2018」に出展	56	1,441
21	12/6	「JICA発行のソーシャルボンド」に投資	56	1,428
22	12/20	平成30年度大規模自然災害等の被災地域支援活動に対する災害対応支援環境大臣表彰を受けました	52	1,406
23	1/22	大阪市に自動車リサイクルの常設展示ブースを開設	57	1,433
合 計			1,316	33,789

ニュースリリース（一例）

News Release



公益財団法人

自動車リサイクル促進センター

環境型社会に向けた自動車リサイクルを考える

全国の小学生を対象とした

第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール

主 催：（公財）自動車リサイクル促進センター 締切日：2019 年 1 月 31 日

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区、代表理事：宇野 浩二）は、小学生の学校生活での学びを通して、自動車リサイクルの重要性を広く知らしめ、社会の小学生を対象とした第2回「クルマのリサイクル」作品コンクールを開催いたします。

多くの小学生は、日本の工業と関連して、国産品を生産する自動車やモノづくりの発展の一環として、自動車リサイクルが重要な役割を担っていることを学び、自動車リサイクルの重要性を広く知らしめ、社会の小学生を対象とした第2回「クルマのリサイクル」作品コンクールを開催いたします。

このコンクールは、環境型社会と自動車リサイクルの発展を目的として、小学生が自分の身近な環境問題や自動車リサイクルの重要性について、絵やイラスト、作文、模型などを通じて表現し、発表する機会を提供します。

本コンクールは、自動車リサイクルを推進する小学生を対象とし、「クルマのほんまごころ」や「クルマのまわり」などの小学生が身近に感じられるテーマを設定し、作品の発表を行います。

<第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞作品例>



News Release



公益財団法人

自動車リサイクル促進センター

自動車リサイクル促進センター（JARC）

「エコプロ2018」に出展します！

主 催：（公財）自動車リサイクル促進センター 日 時：12月7日（水）～9日（金）

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区、代表理事：宇野 浩二）は、12月7日（水）～9日（金）に、東京都港区有明にある「エコプロ2018」に出展いたします。

本センターは、環境型社会と自動車リサイクルの発展を目的として、小学生が自分の身近な環境問題や自動車リサイクルの重要性について、絵やイラスト、作文、模型などを通じて表現し、発表する機会を提供します。

このコンクールは、環境型社会と自動車リサイクルの発展を目的として、小学生が自分の身近な環境問題や自動車リサイクルの重要性について、絵やイラスト、作文、模型などを通じて表現し、発表する機会を提供します。

本コンクールは、自動車リサイクルを推進する小学生を対象とし、「クルマのほんまごころ」や「クルマのまわり」などの小学生が身近に感じられるテーマを設定し、作品の発表を行います。

<第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞作品例>



News Release



公益財団法人

自動車リサイクル促進センター

自動車リサイクル促進センター

平成 30 年度大規模自然災害等の被災地域支援活動に対する

災害対応支援環境大臣表彰を受けました

主 催：（公財）自動車リサイクル促進センター 日 時：12月20日（水）～21日（木）

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区、代表理事：宇野 浩二）は、12月20日（水）～21日（木）に、東京都港区有明にある「エコプロ2018」に出展いたします。

本センターは、環境型社会と自動車リサイクルの発展を目的として、小学生が自分の身近な環境問題や自動車リサイクルの重要性について、絵やイラスト、作文、模型などを通じて表現し、発表する機会を提供します。

このコンクールは、環境型社会と自動車リサイクルの発展を目的として、小学生が自分の身近な環境問題や自動車リサイクルの重要性について、絵やイラスト、作文、模型などを通じて表現し、発表する機会を提供します。

本コンクールは、自動車リサイクルを推進する小学生を対象とし、「クルマのほんまごころ」や「クルマのまわり」などの小学生が身近に感じられるテーマを設定し、作品の発表を行います。

<第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞作品例>



作品コンクール開催

エコプロ2018出展

環境大臣表彰を受けました

災害対策支援環境大臣表彰の状況

Japan automobile recycling promotion center / JARC

4

4. 全国環境イベントでの取組

2018年度は、昨年度の8ヶ所から13ヶ所へと各地域の環境イベントの出展回数を増やし、全国をキャラバンしながら自動車リサイクルの取組についての理解活動を行っている。

また、出展に際しては、地域メディアや自治体との情報共有の取組を行っている。

(1) 環境イベントへの出展計画

	開催地	名称	予定月	規模	MAP
①	神奈川県	かながわエコ101スタ	5月	14万人	
②	北海道	環境広場さっぽろ	6月	3万人	
③	長野県	信州環境フェア	7月	1万人	
④	愛媛県	まつやま環境フェア	8月	0.5万人	
⑤	石川県	いしかわ環境フェア	8月	3万人	
⑥	秋田県	あきたエコ&リサイクルフェスティバル	9月	3万人	
⑦	宮城県	エコ101仙台	9月	1万人	
⑧	愛知県	環境デーなごや	9月	15万人	
⑨	福岡県	北九州エコライフステージ	10月	15万人	
⑩	沖縄県	県民環境フェア	10月	0.5万人	
⑪	島根県	松江環境フェスティバル	11月	1万人	
⑫	京都府	京都環境フェスティバル	12月	3万人	
⑬	東京都	エコプロ2018	12月	16万人	

*⑨福岡県、⑩沖縄県の環境イベントは、台風の影響により中止。

(2) 京都環境フェスティバル、エコプロ2018での取組状況

⑫

- 京都環境フェスティバル
 - 日程：12月8日(土)～9日(日)
 - 会場：京都府総合見本市会館
 - 来場者：約3万人
 - アンケート回収数：1,000件
内自動車1-サー：709件(71%)
 - 自動車リサイクル認知状況：71%
 - メディアへの掲出状況
- 京都新聞



■エコプロ2018

■日程：12月6日(木)～8日(日)

■会場：東京ビックサイト(江東区)

■来場者：約16.2万人

⑬ ■アンケート回収数：2,108件 内自動車リサ－：1,141件(54%)

■自動車リサイクル認知状況：79%

■メディアへの掲出状況：共同通信、日経新聞、日刊自動車新聞等

* 共同通信社から提供いただいた取材映像は次のURLを参照ください

<https://www.youtube.com/watch?v=Hc8-JAv-uSs&feature=youtu.be>

1) 主な出展内容

■マラカスゾーン

見て、触って楽しみながら学べることができる、再生ペレットを使用したマラカス作りを実施。



再生ペレット



マラカス

■紙芝居

難しい内容をわかり易く、楽しみながら学ぶことができる、自動車リサイクルに関するオリジナル紙芝居を、プロの紙芝居師を招き実演。



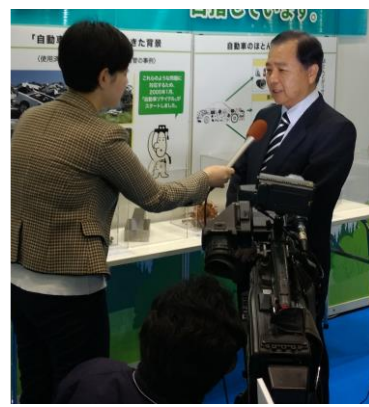
オリジナル紙芝居(一例)



オリジナル紙芝居

2) 取組の情景

共同通信社を始めとした様々なメディアの取材を受けるなど、多くの来場者に情報提供を行った。



5. テレビ・ラジオなどのメディアを活用した取組

自動車ユーザーを含む国民一人ひとりの関心を高め、そして共感を得るために、人々の感情に訴えかけるような“映像”と“音”によるわかり易いメッセージを制作し、地方局地上デジタル放映、BSデジタル放映などの媒体を使ったメディアミックスによる情報発信に取り組んでいる。

(1) 背景

昨年度(2017年度)は、環境や自動車に関連する情報が増えるタイミングで、幅広く自動車ユーザーの認知向上を目指して、全国的な新聞広告を3回実施し、その結果、幅広く注目を上げる取組を行うことができた。

2018年度は、昨年度の取組の振返りの下、“循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組”について、自動車ユーザーを含む国民一人ひとりの関心を高め、そして共感が得られるようなイントロダクション的な“映像”と“音”によるわかり易いメッセージが必要だと考え、新たな映像等を製作し、発信することとした。

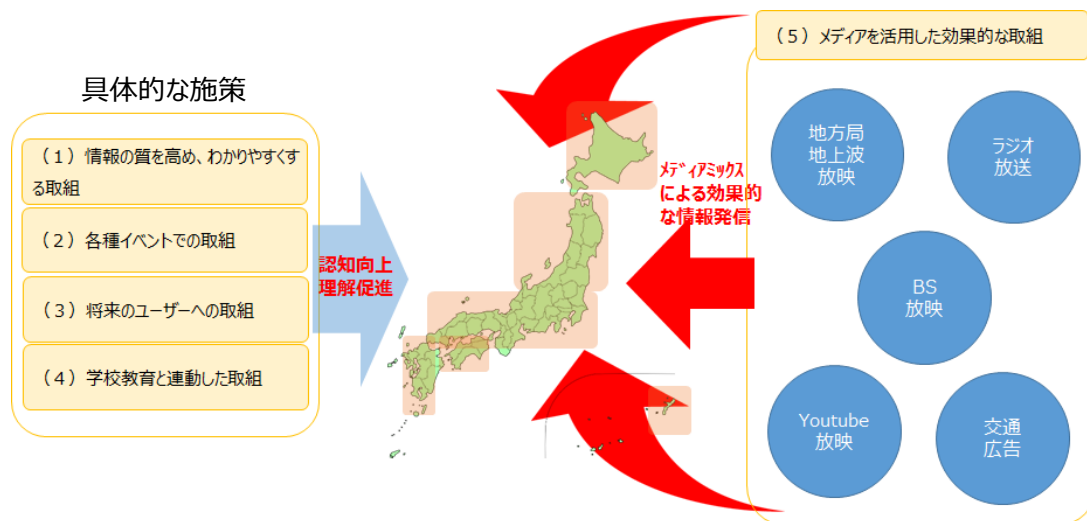
(2) 映像をみた後の人々に期待すること

映像をみて感じたことを周囲の人々の間で話題にし、未来のために何をしなければならぬのかを考え、そして、「共感」がヒトとヒトを繋がっていくことを期待する。

(3) 用途

- テレビ放映、ラジオ放送
- 全国イベントでの放映
- インターネットメディアでの配信
- 公共交通などでの配信
- JARCのウェブサイトでの配信
- 関係者の利用 等

<メディアを活用した取組の概念図>

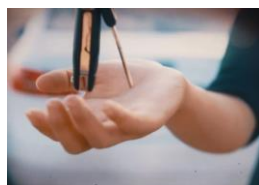
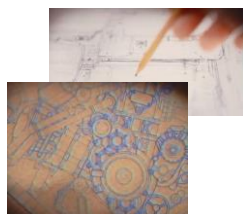
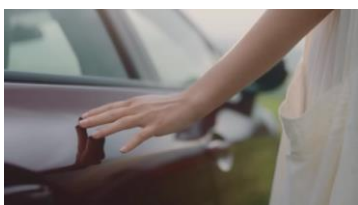
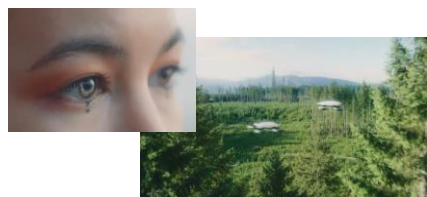


(4) 映像イメージ

クルマのリサイクルが、未来の人々にとって、とても重要なことを「手紙」で表現した。
未来のことを考えていただくきっかけをつくることで、一人ひとりの意識に訴えていく。

<映像イメージ>

<メッセージイメージ>



拝啓。100年後を生きるあなたへ。

あなたの目の前には、
美しい自然とテクノロジーがお互いに共生していますか？

どんな22世紀か。
まだわからないけれど。

つくる人、乗る人、次につなぐ人、

みんなのチカラを合わせて。

私たちは、
クルマのリサイクル
をすすめていきます。

いつか、この星を生きる
あなたのために。

(5) 映像の配信先の選定例

<配信先の選定条件>

- ・地方ユーザーに重点を置きつつ、全国満遍なく配信できるように地域を選定。
ただし、配信数の効率を上げるため、地域メディアの絞込みを行う。
- ・自動車保有台数上位ランキングに基づき、配信地域を選定。
- ・配信時間帯は、視聴者数の獲得ができる、日中帯で選定。
- ・配信する番組枠は、N G枠を設けて、リスクヘッジを行う。

【主な映像配信先】

B S 日テレ、B S 朝日、北海道テレビ、仙台放送、福島放送、新潟テレビ21、富山テレビ、長野朝日テレビ、テレビ静岡、岡山放送、テレビ新広島、九州朝日放送、琉球朝日テレビ、他

6. 大阪市に常設展示ブースを開設

2019年1月18日、おおさかATCグリーンエコプラザ実行委員会（大阪市、・アジア太平洋トレードセンター株式会社、日本経済新聞社）が主催する“おおさかATCグリーンエコプラザ”に、自動車リサイクルに関する常設展示ブースを開設した。現在、北は北海道から南は沖縄県まで全国各地域で開催される環境イベントにキャラバンしながら出展し、ユーザー理解活動に取り組んでいるところであるが、今後、このような環境施設を活用した取組を加え、活動の幅を広げる。

（１）おおさかATCグリーンエコプラザの概要

名 称：大阪環境産業振興センター
[おおさかATCグリーンエコプラザ]
主 催：大阪環境産業振興センター実行委員会
・大阪市
・アジア太平洋トレードセンター株式会社
・日本経済新聞社
所在地：大阪市住之江区南港北2-1-10
営業時間：10：30～17：00(月曜休館)
概要：環境保全活動に関係する企業等が出展。
子供から学識経験者や外国視察団などの幅広い層が来場（年約10万人）。
環境教育と、環境産業振興との両面の機能を備えている。



（２）常設展示ブースの式典状況



7. ユーザー理解活動費の執行状況（第3Q）

2018年度4月から12月末（第1Q～3Q）までのユーザー理解活動に要した費用は、9,802万円（予算執行率：37.4%）であった。
 なお、この理解活動費は、特預金と繰越金から負担される。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

（単位：万円）

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	第3Q までの 決算額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	●全国環境イベントでの情報提供の取組 ●地域メディアと連携した情報拡散の取組	2,000	1,510	75.5%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	●小学生の学校教育と連動した取組 ●自治体と連携した情報拡散の取組 ●運転免許教習生に対する取組	6,100	2,873	47.1%
3	各種メディアを活用して露出を高める取組を行う	●メディアミックスによる効果的な取組	13,000	3,210	24.7%
		●ニュースリリースの積極的配信 ●その他のパブリシティ活動	0	0	-
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	●ウェブページを活用した情報発信と改善 ●広報冊子を活用した情報発信と改善 ●広報ツール制作（チラシ・ポスター等）	1,770	422	23.8%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	●ユーザーの認知状況の把握 ●各種ユーザーニーズの把握	330	76	23.0%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	●効果的な取組の実務支援 ●リスク低減の観点での支援 ●情報発信の効果検証 他	3,000	1,711	57.0%
合 計			26,200	9,802	37.4%

<https://www.jarc.or.jp/>